

登録コード	L2340600		開講年度	2026			
担当教員	鎌田 隆行			副担当			
授業科目	フランス言語文化発展演習						
英文授業名	French Literature and Culture: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文401演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			現代フランス文学と歴史・社会の関係を学ぶため、エッセイの原典を読解し、フランス文学の理解を深めることができます。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			現代フランス文学と歴史・社会の関係を学ぶため、エッセイの原典を読解し、フランス文学の理解を深めることができます。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			現代フランス文学と歴史・社会の関係を学ぶため、エッセイの原典を読解し、フランス文学の理解を深めることができます。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	演習形式の授業です。 本授業では、著名なフランス文学研究者のアントワーン・コンパニオン によるエッセイ集 La Litterature, ça paye (Des Equateurs, 2024) の抜粋を講読します。コンパニオンは、文学が現代社会においてどのような価値と意義を持ちうるのかを、平易かつ刺激的な語り口で一般読者に向けて問い直す試みを続けており、本書もその延長線上に位置づけられます。市場原理や効率性が重視される現代世界において、文学は果たして「割に合う」のかを問う本書では、作者にとって文学は何をもたらすのか、読者にとって読書は何を与えるのか、という二つの観点から文学の価値が多角的に論じられます。本授業では、テキストの講読を通じて、文学の効用を経済的価値に還元できない領域にこそ見出そうとするコンパニオンの議論を読み解き、文学の研究・教育の意味について考察を進めます。						
授業計画	1. ガイダンス：この授業の進め方、教科書、辞書、事前事後学習の方法について学びます 2. 「文学は割に合うのか」という問い 3. 文学をめぐる不信と危機意識 4. 市場原理の社会と文化の価値 5. 書くことはどれほど報われるのか 6. 読むことは何をもたらすのか 7. 時間・効率・生産性に抗する読書 8. 文学の効用：知的形成と判断力 9. 文学の効用：感情・経験・自己理解 10. 引用と伝統一文学史の中で読むということ 11. 教養としての文学とその社会的役割 12. デジタル時代における読書と文学 13. 文学研究・教育は何の役に立つのか 14. 現代社会における文学の可能性 15. まとめ；この授業についてのアンケート（10分程度）を行います						
成績評価の方法	授業での講読演習（50％）と期末レポート（50％）により、総計点に基づいて成績評価を行います。						
成績評価の基準	講読演習：(1)構文の理解、(2)語彙の理解、(3)発話状況の理解、(4)文体的特徴の理解、(5)歴史的コンテキストの理解を判定基準とし、（１）～（５）に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価されます。 期末レポート：(1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、（１）～（５）に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」と評価されます。						
事前事後学習の内容	毎回の授業の終わりに学習内容を振り返って事後学習用の短答式課題を出題し、また、次回の内容につながる予習の指示を行います。次の回の冒頭で、前回の事後学習課題について討議を行います。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						

履修上の注意	フランス語の演習の授業のため、フランス語学習者が対象です。 受講前に必ずこの授業のeALPSを参照してください。 当然ながら、不測の事態がない限り毎回出席すること。 この科目では授業内での読解・討議・課題への取り組みを重視します。これらは出席を前提として行われるため、欠席が多い場合、高得点は困難になります。
質問、相談への対応	授業終了後、時間があればその場で質問に応じます。それ以外の時間はメールで対応します（メールアドレスはeALPSに掲載）。
教科書	教材をPDFで配布します。
参考書	授業中に随時紹介します。